

～第10回法人合同研修報告～

島田福祉会では職員の学習意欲と機会を保障し、資質向上に努めておりますが、その一環として、法人全体での職員教育の充実を図るため、平成26年より「法人合同研修」を実施しております。11月16日に行われた第10回は、改定された保育指針について、白梅学園大学学長の近藤幹生先生にお話を伺いました。

「新指針の概要と保育実践の質的向上～保育者の生きがいを考える～」

「改定された新指針に関するお話を」とお願いしたところ、近藤先生からは上記のような標題をいただきました。穏やかな語り口で、聞き手を安心させて下さる近藤先生のお話は、内容ももちろん職員達を安心させ、力づけて下さるものでした。



昨年度から「改定保育指針を読む」系統の書籍が保育業界にあふれ、真摯に取り組もうとすればするほど具体的な道筋が見えなくなってしまうことに戸惑っていた職員にとっては、「指針とは指し示すものなので、その方向を向いて自園なりに創意工夫を重ねて進んでいく」と考えることで、自分たちの保育を振り返り、自信を持ち、更に向上させようとする意欲につながったのではないかと思います。保育士が保育に意欲を持たなければ、子どもの育ちに前向きに関われないことを改めて自覚し、各園それぞれの保育実践に役立ててくれることを期待しています。



「今回学んだことを、今後の業務にどう生かしていこうと思いますか？」

(★は島田、★は駅前、★は北六丁目、★は北嶺町、★は北嶺町第二)

- ★自由な創造を大切にしながら、保育の内容を考え、養護・教育において個々に合わせた働きかけを工夫し、取り入れていく。園の理念、目標、方針などを再確認し、何を一番大切にしていこうかを見直し、保育に生かしていきたい。(保育士)
- ★自分たちが実践していることに自信を持ち、自分たちの指針を作り上げていくことが大切と言うことが印象的でした。こうしなければいけないということではなく、何が大切か確かめ合い、議論することが大切なのだ学びました。子どもとの会話、感動したことも担任や保護者に伝えていき、給食職員のことにも身近に感じてほしいです。乳児クラスにも顔を出し、子ども達が安心できる存在になりたいです。(栄養・調理)
- ★「食事の中に教育がある」ということなので、食事を一緒に食べるときには、食べものの話や子どもの疑問など、会話をし、共感しながら食べようと思います。(栄養・調理)
- ★指針に縛られすぎなくていいことに少し安心し、自信を持って保育を行っていききたいと思いました。また、保育士同士で話し合っ進めていくことが大切だと感じ、連携を取っていききたいと思いました。(保育士)
- ★大切なことは、新指針に沿って一から作り直すのではなく、それぞれの園のよいところを持ちながら創意工夫をすることだと学んだ。そのためには、先生が何度も繰り返された「見直す機会」を創ろうとする環境があることが重要であると感じた。(保育士)
- ★近藤先生のお話を聞いて、保育って楽しいものだったと振り返ることができた。子ども達の「できた」「楽しい」に、もう少し寄り添っていきたいと感じた。安全第一はもちろん大事だが、子どもの成長・発達を促せるように保育を進めていきたい。(保育士)
- ★「ものには言葉がある」という話を聞き、本当にそうだなと感じた。何気なく言った言葉も、子どもの養護に関わっていると改めて感じ、言葉遣いや声の強弱・トーンなどを考えて言葉を使おうと思う。(保育士)
- ★子ども達の遊びの過程を見守ったり、自分でやりたい、挑戦したいと思う気持ちを大切にしながら見守っていこうと思う。(保育士)
- ★「やりたいと思ったとき子ども達が一番成長するとき」と聞き、やりたいと思う気持ち、挑戦することを見守り、援助していききたいと思いました。(保育士)
- ★指針の通りにやればいいのかではなく、自分がどう思うかを考えながら指針を活用することが大切と聞き、すべてを新指針に寄せるのではなく、自分がよいと思うところから寄せていこうようにしたいと思った。(保育士)
- ★「こうなってほしい」「ここが苦手だから練習させたい」という気持ちが、保育の中でどうしても出てきてしまうので、「子どもの思いをくみ取る」「子どもの視線に合わせる」ということを大切に保育をしていく。(保育士)
- ★告示化の二面性というところで、「大まかに描いてあるので後は創意工夫する」というとらえ方は、今まで自分の中にはなかったのが驚いた。新ルールを与えられたのではなく、それをよりどころに自分たちの保育を考えていくなさいということだったのだと分かった。毎日子どものやりたいことにあふれた生活を送れるような環境を作っていきたいと思った。(保育士)
- ★養護と保育の一体化について自分でも考え、また、子ども達の「やりたい」という意欲を大切に伸ばしてあげたいと思いました。(保育士)
- ★子ども達の人間関係の基礎ができる大切な時期に関われていることを再認識できました。保護者と関わることに苦手意識がありましたが、子どもの感動したエピソードを保護者と共有するとよいというお話があったので、これから実践していきたいと思いました。(保育士)
- ★子ども達の自らやろうとする時期を大切に、遊びを通して学んでいく保育を実践していきたい。園内研修で、保育を学び合えるような内容の研修を行いたいと思った。(保育士)
- ★子どもとの信頼関係を大切に保育していき、子どもの成長や喜びを保護者とも共感していききたいとあらためて感じた。新指針をしっかりと読み、質の高い保育ができるようにする。(保育士)
- ★「よりどころ」である指針を、「自園の手元に引き寄せる」という表現が印象的でわかりやすかったです。「乳幼児期は就学に向けての準備期間ではない」という言葉にも気付かされるものがありました。「子ども達ひとりひとりの成長」に目を向け、個々に応じた関わりができるよう、他の職員と共に考えていきたいと思いました。(主任・副主任)
- ★指針の改定は保育を見直すきっかけと考え、自園の保育を考えていききたいです。また、今年度園で行っている指針の読み合わせから、今後の保育に少しでも活かせるものを見つけていききたいです。(主任・副主任)
- ★長時間保育や保護者支援は、ますます様々な対応、支援が必要になってくる。養護と教育を一体的に保育する中、幼児クラスにおいても情緒の安定を大切にしていきたい。自園の良さが詰まった独自の実践的な指針をまさに創っている途中であり、ケース会議やMTなど、皆で悩みながら保育の質を上げていこうと強く思いました。(主任・副主任)
- ★「自分たちの保育に自信を持つことからスタートする」という言葉が印象的だった。いろいろな面から子どもや保護者を見て、職員会議で発言したり、職員に助言しようと思う。一人一人の職員が自分の保育に自信を持ち、生きがいを感じて働けるよう、それぞれの立場に合わせた援助をしていきたい。(主任・副主任)

